

平成 29 年度 第 3 回科学技術審議会開催結果(概要)

■科学技術審議会(第2回)

- 1 開催日時 平成29年11月4日(金) 15:00~17:00
- 2 開催場所 かでる2・7 10階1040会議室
- 3 議 題
 - (1) 北海道科学技術振興計画について
 - (2) 北海道科学技術賞及び北海道科学技術奨励賞候補者の選考について(諮問)
 - (3) その他

4 委員からの主な意見(次期計画に関するもの)

【重点化プロジェクトについて】

- 多様な人々の暮らしと科学技術が結びついている絵があるとわかりやすい。
- 一時的なバズワードに惑わされるのは良くないが、AI・IoTについては、そう思わない。AI・IoTを如何に使いこなすかが重要。弁護士などもっと普通の仕事にも利用すると、かなり人手が削減できる。
- AI・IoTプロジェクトは、他のものと比較すると浮いて見える。AI・IoTは、すべてのもの、自分たちの生活に関わってくる。効率性や生産性が向上すると理解すべき。
- 基本目標の「1 経済成長」の説明書きで「新たな価値」ではなく「付加価値」だと思う。
- 「基盤的な力」に「アントレプレナーシップ教育」とあるが、むしろ技術人材、地域指向人材を育てるべきだ。
- アントレプレナーシップよりも、学校教育に踏み込んで、チームで解決する力といった若い人材の育成を、方策を入れながら書き込むべき。
- オープンデータをどう構築していくか、行政が具体的に、もっと踏み込んでやっていくべき。
- 4つのプロジェクトは、2つの時間軸を意識しつつ、個々に詰めているし、今後も議論を進めていきたい。
- 重点化プロジェクトは、今までと違って踏み込んできている。具体例の絵が3枚ほどであると非常にわかりやすい。
- 誰が、どの程度、何をやるのか。状況が変わると、KPIも変わってくる。重点化プロジェクトは、ロードマップという位置付けで書いてほしい。

■科学技術審議会部会(第3回)

- 1 開催日時 平成29年8月24日(木) 15:00~17:00
- 2 開催場所 かでる2・7 9階920会議室
- 3 議 題
 - (1) 次期科学技術振興計画の検討案について
 - (2) その他

4 委員からの主な意見

【重点プロジェクト関連以外】

- 「Ⅶ 基本的な施策」のところで、北海道として科学技術の振興に向けて、こういった施策をきちんとやっていくという位置付けを書き込んでおいた方が良い。研究分野はこれ、重点はこ

れ、施策はこうと、ブツ切れのイメージが強い。

- 「Ⅶ 基本的な施策」の「研究開発に関する拠点形成」のところで、前回の拠点形成と今回の拠点形成とでは、今回は事業化、実用化のところはかなり注力しているという書きぶりにした方が良い。取り組もうとしていることは堂々と見える形での表記を検討してほしい。
- 「Ⅷ 北海道内6地域における取組」については、6地域の特徴をきちんと表すような記載、この地域ではここに重点があるという項目立てで整理すると、このような章立てにする意味がある。

「Ⅴ」の北海道の研究開発分野の中には、当然地域に関わっているものもあるわけで、地域独自の取組については「Ⅷ」でフォーカスを当てれば良い。常に一体感を持った計画であるべきで、地域はこれ、北海道全体はこれ、といったことだけは避けるべきだ。

【重点プロジェクト関連】

- 「食・健康・医療」と「環境・エネルギー」は、これまで続けてきたし、これからも考えていかなければならない分野。それに加えて今回、「先進的ものづくり」という分野としてつくりあげてきた。そして、これらの共通的な戦略ツールとして、これからはもうAI・IoTを活用していくということで、「AI・IoT等利活用」分野。この中で、AI・IoTは、並びとしては明らかにちょっと違うが、3プラス1の4分野を次期計画の重点分野とする。
- 今回、重点化ということで整理しようといった割には、あまりにも項目が多くて、重点化できていない。重点化プロジェクトをもう少し絞り込んで、具体的にした方が良いのではないか。
- 「食料の安定供給」と記載されているが、安定供給するためには色々な手段があって、品種改良とか、それを一つ一つ書いてもしょうがない。また、例えば、「食料の付加価値向上」の中に「機能性食品等の開発」が入っており、総論と各論が入り乱れている。
「安定供給」には、当然、食の安全性も含まれる。細かくちりばめられている項目をできるだけ統合する方向で整理していただきたい。これ以上、新しい、大きなタイトルは出てきてほしくない。
- 「先進的ものづくり」分野は、書かれている項目が、他のところと比べて細かく見える。
- 「先進的ものづくり」の中で、「自動車の自動走行に関する研究開発の促進」が、特出しして項目になっている。道の「自動車産業集積アクションプラン」の中では、自動走行と部品生産拠点形成など、何項目か挙がっているが、それと整合性を取るべき。
- 「自動車の自動走行に関する研究開発の促進」と記載があるが、北海道ならではの強みがわかる表現にした方がより説得力がある。
- AI・IoTについて、産業としてのITをもう少し出していった良いのではないか。
- AI・IoTの分野で、人材育成には二つの意味がある。一つは、誰でも当たり前のツールとして使えるようにする意味。もう一つは、情報処理分野のプロフェッショナルを育てるという意味での人材育成がある。
- AI・IoTの分野では、ネットワークづくりがすごく人材づくりに影響する。IT業界とうまくつながることによって、育成した人材に定着してもらえる。
- 多少、手が届くのが難しくても、何か夢のあるプロジェクトを重点化プロジェクトの中に入れておいてほしい。

「食・健康・医療」のところでは、ゲノムバンクの関係。「環境・エネルギー」では、水素サプライチェーンの構築。「先進的ものづくり」は、航空宇宙。そういう意味では、夢のようなものは、要素としてのこっているのかなと思う。

1 開催日時 平成29年10月24日(木) 15:00~17:00

2 開催場所 かでる2・7 9階 920会議室

3 議 題

- (1) 次期科学技術振興計画の原案について
- (2) その他

4 委員からの主な意見

【全体の構成と重点化プロジェクト】

- 第3章で「情勢の変化」などを記載した後、重点化プロジェクトで、また、背景や北海道の課題が出てくるなど、流れが良くない。
- たとえば、重点化プロジェクトの基盤的な力と基本的な施策は、どのようにリンクするのか。関連する項目について、うまくリンクできるよう表現の仕方を工夫すべき。
- 重点化プロジェクトの項目は、当初、予定していたものと少し違う情勢の変化が出てきたから、新しい課題として捉えて、特に何かやりますという宣言であり、わかりやすいと思う。
- 重点化プロジェクトは、そこを深化させて記述するという観点で、背景・課題を特出で記述するは悪くはない。タイトルの付け方が、「北海道の強み」などという書き方が良くない。全体からつまみ出して、再度説明する趣旨が分かれば良い。
- 重点化プロジェクトは、全体として良くまとまっている。当初、戦略Ⅰ、戦略Ⅱなどとの項目があり、ⅠとⅡの違いがよく分からないなどであったが、その辺も整理されすっきりした。
- 30年、50年先を見つめて、将来像を踏まえて全体を俯瞰する絵があると良いと思う。

【指標などについて】

- 指標について、企業の売り上げ、産業の売り上げといった企業活動に関するものを加えることはできないか。
- 北海道は、こういう部分で強みがあるという根拠として、数値で出せる部分を検討しては。研究者の数、論文数なども参考となると思う。
- AI・IoTの参考指標で、共同研究数と総労働時間数としているのは違和感がある。

【知的財産と知的財産権の使い分け】

- 「知的財産」と「知的財産権」の使い分けが整理されていない。ITを使った情報財は知的財産だけれど、保護するときは知的財産権。こういう観点で、整理すべき。

【その他】

- 概要版と本編の項目が相違していたりするので、再度、確認作業をしっかりとってほしい。